ひとを育てる活動

給食の代わりにお米の配給を受けました！
― コロナで対面授業中止のビラーンの子どもたち ―

近くに公立校がない辺境の初等教育を支える CMIP 運営の小学校 4 校（在籍数 725 名）。私たちが支援する週 3 回の給食は学習意欲継続の力にもなっていました。しかし、感染者が皆無の辺境でも、コロナ対策として、対面授業から自宅でのプリント学習に切り替えたと聞いていて、給食はどうなっているのか確認しました。

6 月下旬、お米 3 kg入りポリ袋を手にした子どもたちの写真が届きました。自給自足の山岳部では、コロナでもバナナやイモ類で空腹を満たせますが、お米のご飯は格別です。

今年度の CMIP ビラーンの学校給食予算は 10 万ペソです。kgあたり 45 ペソとして各 3 kg配布でほぼ 10 万ペソです。

1 回限りの配布となりますが、3 kg（約 30 食）が子どもたちの心と体の成長に役立ってくれることを願っています。

人口密度が低いナブルカマガヤ小学校区はマスク着用義務はないものの、登校時は密を避けるように指導、今回も間隔をあけての撮影となりました。元奨学生ネンノ先生(戸口)担当の 3 年生です。

半年遅れの里親からのクリスマスギフト
― 改めて SCMSI 経由チボリの子ども支援を考える ―

この 6 月末、「里親の皆様からプレゼントをいただきました！子どもたちは在宅学習中のため家に届けます」という写真添付のメールを受け取りました。

物流にもコロナの影響が出ていると聞いていて、念のため確認してみると、半年遅れのクリスマスギフトでした。

当団体が「チボリ国際里親の会/JOFPA」の活動を引き継いですでに8年が経過しましたが、設立時からのSCMSI経由チボリ支援の形「精神的里子里親制度」は、40 年を経た今も 16 組の間で続いています。里親という応援団の存在は、里子の「学び続ける」を支え、また、里子の存在が里親の「支援継続」の力になってきました。一方で、里子をもたないSCMSI全体支援がどう生かされているかの情報が少なく、前号でお伝えのように、今年度の SCMSI 経由支援は、「里子への奨学金」と、「創立記念日やクリスマスの寄付」などより使途を明確にした形にしました。そして、改めて奨学金対象となった 16 名の里子のデータを確認してみたところ、職業欄から支援不要と思われる事例が見受けられました。

「支援で教育を受けた親が、自ら子どもの教育を支える」はまさに長期に渡る活動の成果です。コロナ収束後の現地訪問では、SCMSI 経由で要支援の子どもに届く方途があるか等、支援終了の選択肢も含めて確認したいと思います。

設立 12 年目の先住民族学校/ILS ― 学校自主運営財源を増やす取り組みから ―

1979 年に SCMSI の教師としてチボリの子どもの教育に参加、ハイスクール校長も務めたのち、2009 年、辺境の未就学児童のために先住民族学校/ILS を開設したアニータ先生。その出会いは HANDS が PFP と協働してティヌオスで実施した 2014 年の地球環境基金助成アグロフォレストリーです。その後も各種助成金を受けて計 3 件の事業を隣接コミュニティーで実施し、8 か月ほどで収穫できるバナナはすでに貴重な収入源となっています。また、根元に生える新株は苗木店より安いとして学校農園用に ILS が買い取るなど、日本にも輸出されるこのバランゴンバナナは、辺境の住民や学校運営を支えるものとなっています。学校農園ではまた、冷涼な気候に合うアボカドや、頻発する野鼠被害が少ないショウガ栽培も増やしました。一方、農園でのバヤニハン（昼食付労働奉仕）はコロナ禍で域外の日雇いに行けない住民に喜ばれています。

私たちが ILS 運営支援に本格的にかかわったのは約 1 年前のヤギやアヒル飼育事業（平賀基金）からですが、ほぼ毎日届く現況報告で、支援を学校運営財源に繋ぐ歩みがよく見えます。先日も「食肉用アヒルの繁殖がうまくいき、収入が 5000 ペソになった。1 万ペソになったら雨季の山道に強い馬を買う」との報告が届きました。

支援で購入のバイクで、ティヌオスの ILS 校に戻るアニータ先生(中央)と教師、ドライバー(ともに SCMSI 卒業生)。注文生産のサイドカーは7/20時点でまだ届いていません。

辺境に共通する深刻なニーズは輸送手段です。ILS でも換金作物をレイクセブ町のマーケットに運ぶため、また、ハンディクラフトを都市部の店舗に卸すために、まずはバスが来る町中央部まで運ぶ必要があります。「知人から 1 回 100 ペソで借りるバイクが唯一の輸送手段で、嵩張る竹細工出荷にも対応できる自前のトライシクル（サイドカー付きバイク）支援を」の要請が届きました。すでに新規予算案策定後で次年度にとしましたが、6 月中旬、退会申し出の会員から「自立に役立つ支援」にと寄付をいただきました。「トライシクル購入こそふさわしい案件」と前倒しで支援をさせていただきました。